

第45回原産年次大会

セッション2: 福島事故をふまえて— 安全性向上への取り組み

議長: 松浦 祥次郎

公益財団法人 原子力安全研究協会
評議員会長

新たな原子力安全規制組織 「独立性の確保」と「7つの原則」

☆国民の信頼を回復するに足る能力と、
その能力を十分に発揮可能な独立性の確保

①規制と利用の分離

—原子力利用への配慮による規制の実効性低下防止

②一元化

—関係行政を一元化、限られたリソースを集約

—予算・法律・人材を一体化、実効性ある体制の確立

③危機管理

—原子力事故に対処する強力な危機管理体制

—国民への被害を防止し、速やかに被災者・被災地を
支援する体制の整備



④人材育成

－国際的な研究・研修機関の構想（国際原子力安全
研究院（仮称）の設置）の検討

⑤新安全規制

－形骸化した規制から脱却し、最新知見をベースとして、
常に原子力安全を高める規制体制へ変換

⑥透明性

－原子力安全行政に係る取組や規制を分かり易く公表
－国民との積極的なリスクコミュニケーション

⑦国際性

－人材の国際化を通じた、国際的な最新かつ多様な
知見を取り入れる体制の構築